



関川村

第128号

令和4年8月15日発行

2022

議会だより



光兎神社

今年も立派な茅の輪ができました！

- 会議報告 2 ページ
- 一般質問 5名登壇 3 ページ
- 村民の声 山口良明さん 8 ページ



村のホームページでもご覧になれます。
<http://www.vill.sekikawa.niigata.jp/>

発行 関川村議会 発行責任者 議長 渡邊秀雄
編集 議会広報常任委員会 TEL (0254) 64-1494

会議報告

4月28日(第5回)
臨時会議

■ 条例改正

◇関川村税条例の一部を改正する条例

地方税法の一部を改正する法律により、村の条例の一部を改正するものです。

◇関川村国民健康保険税条例の一部を改正する条例

新型コロナウイルス感染症の影響によって収入が減少したこと等による国民健康保険税の軽減措置を令和4年度も行うものです。

◇関川村介護保険条例の一部を改正する条例

新型コロナウイルス感染症の影響によって収入が減少したこと等による介護保険の第一号被保険者に係る保険料の軽減措置を令和4

年度においても行うものです。

■ 一般会計補正予算
200万円の追加補正

◇総務費 140・8万円
訴訟対応の弁護士委託料です。

◇保険衛生費 40万円

4回目の新型コロナウイルスワクチン接種事業費です。

◇学校管理費 19・2万円

中学校費で、修学旅行がコロナの影響で旅行先を変更しています。それによって企画料の保護者負担になる分を村が支援するものです。

■ 南中橋橋梁補修工事
請負契約の締結

契約金額 5236万円

契約相手方

株式会社 丸弥組

5月19日(第6回)
臨時会議

■ 一般会計補正予算
1260万円の追加補正

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金です。内訳は飲食応援プロジェクトで1160万円と飲食関連事業者等継続支援事業で県の補助対象になった事業者に10万円を上乗せするものです。10件を見込んで100万円の予算組みです。

6月9日(第7回)
定例会議

■ 関川村村営特定公共
賃貸住宅管理条例の
一部を改正する条例
(抜粋)

上位法令の改正により里親に委託されている児童も同居親族要件に認められるものです。

■ 一般会計補正予算
8770万円の追加補正

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金1870万円です。内訳は、抗原検査キット、観光情報センターエアコン工事、のくむトイレ改修工事、安角ふれあい自然の家トイレ改修工事、4回目ワクチン接種(全額国庫)

住民税非課税世帯等臨時特別給付金・子育て世帯生活支援特別給付金、コミユ

ニティ助成(宝くじ助成)補助金(下関・桂・金丸・鍬江沢)道路橋りよう維持費、小学校通学路他です。

■ 介護保険事業
特別会計補正予算

賦課誤りによる、保険料返還金10万円(件数で3件分)

■ 簡易水道事業会計
補正予算
100万円の追加補正

道の駅周辺道路改良工事に伴う、消火栓移設の受託工事費です。



南中橋



一般質問



小澤 仁 議員

脱炭素社会への取り組み

議員

3月定例会議の一般質問において、脱炭素社会への取り組みを伺った。「2月に国の脱炭素先行地域の計画提案に応募している」との答弁だったが、その結果と今後の取り組みを伺う。

村長

3月定例会議で説明した道の駅周辺エリアでの脱炭素先行地域づくり計画については、国の審査の結果、残念ながらこの度の採択は叶いませんでした。審査を行った脱炭素先行地域評価委員会からは、山村地域である村の中心部の公共施設等を対象として、電力のレジリエンス強化の観点から太陽光発電蓄電池を設置するとともに、マイクログリッドの導入を目指すことは評価頂いたものの、需要家となる住民の皆様との合意形成や東北電力との系統連系など、今後検討、調整が必要な所が多くあることから、「早期に具体的な検討を進めることを期待する。」というご意見を頂いたところでした。

今後の取り組みですが、不採択ではあったものの、計画内容については評価をいただいていますので、検討、調整が必要などころを早期に具体化し、住民の皆様、関係企業との合意形成を進めながら、次回8月26日を公募期限としている第2回の先行地域募集へ応募を目指しているところ

議員

懸案材料の住民との合意形成の部分は脱炭素の地域づくり計画が住民に浸透していないように感じる。合意の前の住民への周知についての考えは。

地域政策課長

6月2日に地球温暖化対策会議を開催し、既に議論の場をスタートしました。会議には区長さんをはじめ、関係される発電事業を行っている事業主、経済団体である商工会等で、まずは議論を重ねます。今後については、やはり地域の皆様への説明が必要と考えていますので、地域に足を運びご理解をいただけるような議論の場を設けていきたいと

考えています。

議員

電力会社との連系は。

地域政策課長

東北電力とのネットワークの接続の関係ですが、現在、岩船の変電所では高圧の連系は出来ないが、低圧(50K未満)の連系は出来るという形になっていきます。村としては、メガソーラーといった大きなものをするのではなく、今ある資源を活用しながら、小さい発電等々も視野に入れてやっており、中心となるのは低圧での接続を念頭に置いています。必要であれば自営線での接続も検討しているところ

議員

骨髄バンク、ドナー助成制度

議員

県内でも30市町村の内21市町村がすでにドナー休暇を取得しやすくなるなどの助成制度を導入しているが、(2022.4.15現在) 当村でも骨髄バンクドナー助成制度を導入する考えはあるか。

村長

村ではホームページを始め

ポスターやパンフレット等による普及活動、骨髄バンクドナー登録会開催への協力など、ドナー登録を増やす取り組みを進めてきました。骨髄バンクドナー助成制度を導入している県内の市町村では、個人に対する助成や事業所に対する助成等、それぞれ市町村で助成内容が異なる様です。村としては、さらなるドナー登録を促しつつ、骨髄提供時の経済的負担の軽減を図るため、他の市町村の助成制度を参考にしながら村の助成制度の創設について検討を進めたいと考えています。

議員

前向きな答弁をいただいたと思う。来年度にむけての制度設計ととらえて良いか。

質問をうけて状況を調べてみると随分と進んでいる自治体があります。ドナーをいかに増やすか、また、協力していただく方に行政としてどの様支援助していくかというところは大変大事なことで、来年度に向けて検討を進めていきます。

一般質問



鈴木紀夫 議員

・ 鮎がもたらす経済波及効果 総額12億円!!

議員

荒川は、鮎釣りでは三面川と並び全国的に有名で鮎釣行も多く、そのにぎわいは夏の風物詩でもあった。しかし、近年では鮎の数も激減し、これに比例し釣り客も減少した。

鮎減少の要因として、岩藻に粒子の細かい泥が付着したための餌不足が考えられる。これは、上流のダムが原因ではと言われているが村としての対応は。

村長

釣り客でにぎわう関川村の復活は、私の就任当初から強い思いを持っており、有識者などに相談していきませんが、昔のような河川環境の復活は難しい状況です。

ご指摘のありました上流部のダムと河川の泥との因果関係は必ずしも明確ではありませんが、大石ダムでは、鮎やカジカ等の魚類の生息環境の改善を図ることを目的に、放流する取組を5月の下旬に年1回実施をし、していただいています。

議員

今後、村は稚鮎放流事業への補助、河川水質向上に有効な下水道への加入促進など、まずは出来ることを継続するとともに、漁協などの関係団体からの話を伺い、どんな取組が有効か、今後も引き続き研究していきたいと考えています。

大石ダム以外にも荒川上流にダムはあるが、その対応は。

農林課長

治水のダムとは目的が違っています。そのため、対応が可能か確認します。

議員

鮎を捕食するカワウは猟友会の協力で年間100羽前後駆除し、ある程度効果はあったが一掃はできていない状況だが。

農林課長

河川の状態もあり、苦慮していると聞いています。今後も、荒川漁協および猟

議員

友会と協力しながら、効果的な駆除について協議を進めます。

議員

鮎の放流は魚獲量確保の最も有効な手段で、全国の有名河川になるほど鮎の放流量も多い。荒川漁協も年間15万尾の鮎を放流している。また、今年、村のカジカ養殖場の2漕のプールを借りて稚鮎の試験養殖を開始した。施設の改修工事を行えば残り5漕のプールでも養殖ができ、年5万尾の鮎が放流可能になる。施設の維持費で村は年間25万円の支出をしているが、借り手がいない現在、この施設を荒川漁協に無償提供し荒川への放流増量をはかっているかどうか。

村長

稚鮎の放流量を増やせば鮎が増えるのかはよく分からない部分もあります。河川の水質、水温によっても成長しないという話もあります。まずは河川環境をし

議員

有名な河川での鮎釣りによる経済波及効果は12億円内、地元へは7億円以上と試算され、大変魅力ある観光資源。

かつて地元温泉旅館一軒で、鮎釣り客の宿泊が1ヶ月間で延べ人数が600名以上あった。昨秋のサケ釣り客700名のうち350名が地元温泉旅館に宿泊している。鮎釣り人口を考えると、その何倍もの効果が期待できる。

持続可能な漁業システムの確立は村づくりの一翼を担うものと考えます。今後も前向きな姿勢で取り組むことを期待する。

村長

荒川漁協より、鮎の事業についての考えを伺い、村としてどのような対応ができるか考えていきたいと思っています。

一般質問



伊藤敏哉 議員

男女格差解消に取組み
男女が共に活躍できる
村づくりを

議員

村の人口は予想を上回るスピードで減少している。特に20代30代の女性がここ10年間で4割近い減少となっている。若い世代の女性の転出が多いのはジェンダーギャップといわれる男女の格差が厳然とあり、女性が活躍しづらい、または居場所がないといった村の社会環境によるところが大きいと考える。女性も男性と同様に意思決定の場に参加できる環境をつくるのが急務であり、そのための仕組みづくりを早急に進める必要があると考えるが、村政の範囲で取組み可能な施策について村長に伺う。

村長

まず村の現状について説明します。女性の比率は役場職員全体では45%で、同管理職では県平均12・9%に対し村は27・3%。各種審議会等の委員に占める割合では県平均27・6%に対し村は20・8%ですが町村平均19・6%は上回っています。一方で集落や地域の

会議等の参加は依然男性が多く、村議会議員にも女性が少ない状況です。村では総合振興審議会において男女を割り当てる形で各コミユニティに委員の選出を依頼したり、一昨年度には女性対象の未来ミーティングを開催するなど、女性が意見を発することができ環境づくりに努めてきました。活力ある村づくりに女性の視点は欠かせず、意見・提案が実際の施策につながったものもあり、引き続き女性の参画、意見の反映に努めていきます。



議員

次代を担う青少年のふるさとを愛し誇りに思う心の

醸成のため、男女が共に活躍できる生き生きとした村づくりが重要と考えるが、男女共同参画教育の学校現場での取組みを教育長に伺う。

教育長

学校においては、学習指導要領に基づき児童生徒の発達段階に応じ、教科や学校行事等の学校教育全体を通して人権の尊重や男女の平等、男女が共同して社会に参画すること、男女が協力して家庭を築くことの重要性について指導しています。

議員

議員16人中、7人を女性が占めるなど男女共同参画の先進地といえる兵庫県小野市では、女性が自治会役員を務めると補助金を出すなどの施策で成果を上げています。当初は住民の抵抗もあったようだが、女性が区長はじめ役員になったことで支障が出たかといえはその逆で、男性とは違った視点で物事を捉えた自治会運営で活性化が図られた、自

村長

治会の活動に新しい成果が現れたなど、総じて高評価を得ているとの事例がある。村で同様の事業に取組むことへの見解を伺う。

今の児童生徒の世代では薄まっているように感じますが、依然として「男は外、女は内」の意識は残っており、集落や地域で女性が役員に出づら環境にあるのは確かだと思えます。役場の女性職員に聞いたところ、男性は消防団をはじめ集まる機会が多くあってコミュニケーションの場に恵まれています。女性にはそういう場がない。婦人会活動もほとんどの集落でなくなつたとのことでした。このような女性を取り巻く環境が女性活躍につながる要因だと思えます。集落や地域での女性参画への考えが変われば、村全体の変化へつながると思えますので、今の補助金の事例も含めて村としてどのような施策が必要か研究していきたいと思えます。

一般質問



近 壽太郎 議員

・関川村人口ビジョンの検証

議員

平成27年度に関川村の人口ビジョンが策定されてから7年目を迎えた。この間様々な施策を講じてきたが、人口減少に歯止めはかからず、今日に至っている。人口ビジョンでは早急に歯止めをかける取り組みが必要であり、早ければ早いほど後々の人口減少幅を抑えることができる。人口ビジョンは村の総合計画や総合戦略に大きく関わる構想であり、小さいわが村の将来に大きく影響を及ぼすことになる。改めて人口ビジョンを検証し、早急に是正すべきと考え、以下の質問をする。

村長

これまで取り組んできました個々の事業につきましては、毎年度予算査定段階で既存事業の実施状況や成果、次年度に向けた新たな事業の必要性など定性的な検証を行っております。

転出抑制策につきましては、

県外に通学する大学生等を財政支援をすることによって、進学を契機にした転出を抑制しようとする。通学定期券の購入助成事業の対象者を大学生や専門学校生まで拡大しました。また、転入促進策として

は、村を支える人材を呼び込むことを目的とした関川村ファミリー等移住支援金を創設しました。

議員

村の人口を長期的に安定させるためには、出生率の向上と社会減対策、特に若年層の流出に歯止めをかけることが早急に必要と人口ビジョンで示している。令和4年3月末現在の生産年齢人口（15歳から65歳までの人口）は人口の48%で、50%を切っている。20歳から39歳の人口は、直近の10年間の平均で毎年20人程度減少している。また出生数では直近5年間の出生数が年間20人程度、令和3年度では14人であることなどを勘案すると、人口ビジョンの推定値とかけ離れている各推定値の根拠を問う。

村長

人口ビジョンの推定値は、2015年の国勢調査の結果と社人研^{*}の調査結果等をもとに推計していますが、村が目標とする特殊合計出生率と社会減を抑制する対策の効果を加味して推計したものです。特殊合計出生率は、2013年〜2017年の1.47に対して、子育て支援策を実施することによって、2030年に2.1に上昇させることを目的にかかげています。

議員

3月定例会議で人口減対策の取り組みとして村民と問題意識の共有を図ると答弁しているが、具体的にどのような方法で共有するのか。

村長

村民の皆様が集まる会議、例えば区長会議や総合振興審議会などの場で村の状況を伝えるほか、広報せきかわなど情報発信を通じて伝えていきます。

議員

人口ビジョンで示されている

る社人研の推定値に近づいている現状を村民に周知し共有することを目的に、今後の対策などを示した冊子を配布する考えはないか。

村長

今後の目標値、そして実現するためのアプローチを公表している。既に冊子になっていると言えます。人口ビジョンが社人研の推定値とかけ離れているというのは、もともと高い目標値を見ています。それに向けて努力することなので、実績に合っていないというのは行政の努力不足かもしれませんが、何もしなければ社人研の数値になります。目標値を高く掲げて、この何年間の間で努力しようというスキームで考えています。引き続き人口減少の対策については施策総動員で進めていきたい村の最重要課題と考えています。

^{*}社人研とは国立社会保険・人口問題研究所の略です。それぞれの要因に関する実績に基づいた人口統計学的な投影手法によって将来の人口を推計しています。

一般質問



加藤和泰 議員

・ 保育園2園体制の見直し
具体的スケジュールは

議員

村長の施政方針で「村の出生数の減少傾向や施設の老朽化、保育士の確保等課題がある中、よりよい保育環境の実現を目指し、下関・大島の2園体制の見直しについて具体的に検討をすすめる」とあるが、今後のスケジュールは。

村長

令和4年4月1日現在の園児数は、下関保育園が85名、大島保育園が32名の117名です。

令和3年度までの出生数などから令和6年度の園児数を想定すると、両園合わせて80名から90名程度になる見込みです。

下関保育園の定員が120名、大島保育園の定員が45名ですので、令和6年度からは下関保育園だけで園児を預かることが十分できるようになります。

子供の成長を考えると、小さいうちからたくさん友達や保育士と関わることで社会性の発展を促し、よ



下関保育園

り豊かな人間理解へとつながると言われており、保育園統合は、こうした保育の観点からも有効なため、令和6年4月に現在の下関保育園の施設を使用し、両園を統合する予定です。

保護者に対しては、6月中に説明会を開催するとともに、統合に向けた施設改修を令和5年度中に完了させる予定で現在所要の準備を進めています。

なお、村民の皆様に対しては広報誌などを通じて周知を図ってまいります。

議員

どのような施設改修が必要か。

健康福祉課長

3歳以上の園児と未満児が大きな遊戯室で一緒に遊ぶことがあり、危険な場面が時折見受けられるため、既存の保育室と廊下を改修し、主に未満児が遊べる遊戯室を整備する予定です。

また、トイレについては和式トイレを洋式トイレに改修し、トイレの床を衛生面が向上するものにするよう検討しています。

議員

耐震工事の必要はないか。

健康福祉課長

現在の下関保育園は、昭和56年に建設した鉄筋コンクリート造りの建物と、平成18年に増設した未満児棟があります。

いずれも耐震基準を満たしており、今回の統合による施設改修に耐震工事は予定していません。

議員

統合後の大島保育園の使用についての考えは。

村長

大島保育園は昭和44年の建設であり、本格的に使用する事は厳しいと考えます。場所としては、駅や店舗に近く、大島集落の好立地にありますので、どのような使い方がいいか今後検討を進めていきたいと考えます。



大島保育園

村民の声

ノープラン旅行記

山口良明さん
(辰田新)



17歳、最後の夏休みにバイクで北海道一周(ほぼ)へ行ってきました。

一週間前ふいに思いつき、早速500円の地図を購入し、海沿いを指でなぞりながら、1週間あれば余裕でまわって来れるなど、ざっくり計画を立て地図を閉じたのです(その後この地図を見るのは10日後)。出発前日、親に、明日から北海道を一周してくるからと伝え翌日朝一で出発しようとしたら、親父がバイクの前で両手を広げ仁王立ちし出発を反対するのです、こちらは行く気満々で、行く、行かせないで、しまいには道を知らないからダメだと言いはじめ、こちらは地図も買ってあるから(一回しか見ていない)目もあるし耳もあるし口もあるから大丈夫と言いつ返し、ようやく親父が根負けし、出発できたのはお昼過ぎ、出発時何かついたら使えと10万円を渡され(心の中

でガッツポーズ、その後、翌年には亡くなってしまっただが半日近くも仁王立ちしていたのだから良い冥土の土産? いや供養になっただろうと思う)

朝の快晴から一転、午後には雨模様で夕方にかけて土砂降り、ようやく青森発の最終フェリーに乗れて仮眠いざ北海道! 真夜中の函館で道に迷い、仮眠中のタクシー運転手さんを起こして教えてもらおうのだが、「どうも」と一言告げ走り去る新潟ナンバーのバイクを見送った運転手さんはどんな気持ちだったのだろうか、海沿いを走り、襟裳岬を指すのだが、門別を過ぎたところで、なぜか10日前の地図を思い出し何気に広げてみたら、何と内陸を抜ける網走までのショートカットを発見、早速引き返すが、その道が凄まじいほどの悪路、あち

ここのネジが緩み始め異音が発生し都度修理しながら進むのだが、峠の途中で突然のエンジンストップ、雨の降りやまない中でのトラブルは、心がバッキリ折れてしまうのです、以後、数々のトラブルと事象があり旅を終える。この経験が自分の糧になったと胸を張り言えれば良いが、走り終わったという事実だけ、ただ現実には、良い事も悪い事も、思っている以上の事が起きるのを思い知らされた旅でした。



編集後記

宮前の光鬼神社では、今年も立派な「茅の輪」が作られ、6月18日に氏子会役員の皆さんにより鳥居に据え付けられました。茅の輪くぐりは、日本神話のスサノオノミコトに由来するといわれ、参道の鳥居に茅(ちがや)という草で編んだ直径2メートルほどの輪を作り据え付け、これをくぐることで心身を清めて災厄を祓い、無病息災を祈願するというものです。

光鬼神社には毎年この「茅の輪くぐり」に県内外から大勢の参拝客が訪れ賑わいます。お盆を迎え、あと半月ほどで稲刈りが始まります。豊作でありますように、そしてコロナ禍が一刻も早く終息しますようにと願うばかりです。(敏)

議会広報常任委員会

- 委員長 加藤 和泰
- 副委員長 鈴木 紀夫
- 委員 近 壽太郎
- 伊藤 敏哉
- 小澤 仁
- 高橋 正之